米空母艦隊釣魚島に接近 専門家は釣魚島への配備強化と見る

韓娜

20121004 0443 ソース：北京晨報

中国中央テレビの報道によると、米国海軍の 2 個空母戦闘群と 1 個海兵隊特別派遣隊は、最近、釣魚島から遠くない西太平洋一帯で活動を開始した。これに対して、米国 TIME 誌は、“或いは偶然かもしれない。心配する必要はない”と述べた。

中国中央テレビは、「米国 TIME 誌は、9 月 30 日、“米軍の大型艦隊が紛争中の島嶼に接近、目的は何か”と題する論文を発表した」と報道した。報道によると、「最近米国は、中日間で紛争のある東シナ海の島嶼付近に強大な陸海空部隊を隠密裏に集結した。ジョージ・ワシントン号空母戦闘群は、中日間で紛争のある釣魚島に近い東シナ海の島嶼付近ですでに活動を開始した」。この事実は、日曜日に米国海軍官員から証言を得た。米国海軍官員は、ジョージ・ワシントン号空母戦闘群だけでなく、ジョン・C・ステニス号空母戦闘群も南シナ海付近で活動を開始したことを証言した。同時に、フィリピン海付近では、約 2200 名の米国海兵隊特別派遣隊を乗せた水陸両用攻撃艦ボノムリチャード及び水陸両用護衛艦が活動している。

常識的には、空母戦闘群と海兵隊は個別に行動するので、今回米国の二つの空母戦闘群と海兵隊が太平洋の比較的狭い区域に集結したことは異常であるようだ。これに対して米国太平洋軍司令部のスポークスマンは、今回の訓練と空母の動きは、釣魚島における中日の緊張関係とは関係ないと述べた。

軍事専門家で中国中央テレビの特約論説員である李莉は、次のように分析した。「今回米国の二つの空母戦闘群と海兵隊が太平洋の比較的狭い区域に集結したのが偶然だというのは理解できない」と。

李莉は次のように指摘した。「空母戦闘群の出現、特に二つの空母戦闘群の出現は、より多くの脅威の表れであり、単純に考えてはいけない。通常の下況下においては、危機の表れであり、この地域は既に一定程度危機的状況にあると認められる。米軍は、一般的に空母戦闘群を同時に二つ出動させる傾向がある。今回配備区域の一つは東シナ海、他は、南シナ海と比較的離れているが、東南アジアに集中して配備したと考えるべきである。そのほか、この情報を少し前の時期の東シナ海海域全体の米軍の配備と関連させてみると、すなわち“オスプレイ”と二つの空母戦闘群の配備と関連させると、一連の動きは釣魚島への兵力配備の強化であることが分かる」と。

一関連ニュース

中国は、日本が右翼分子の釣魚島侵入を容認したことを非難した。

中国外交部スポークスマン洪 LEI は、3日中国海監船が再び釣魚島海域をパトロールした件についての記者質問に対し次のように答えた。「中国は、日本の右翼分子が不法に釣魚島海域に進入することに絶対反対する。中国海監船は継続して釣魚島海域のパトロールを行うであろう」と。

ある記者は次のように質問した。「10月3日日本の右翼分子は再び釣魚島領海に侵入し、中国海監船は再び釣魚島海域をパトロールした。これは事実か？これに対して中国はどのように説明するのか？」

洪 LEI は次のように答えた。「中国は日本の右翼分子が不法に釣魚島海域に進入することに絶対反対する。現在の情勢は正に中日が釣魚島紛争で談判中であり、この間日本の右翼分子が釣魚島で反復して挑戦する目的は何なのか？日本政府はなぜ再再容認するのか？近年来、日本の右翼勢力は、釣魚島問題をネタにして中日間の矛盾と緊張関係を煽った」と。

洪 LEI は又次のように述べた。「中国は事態の発展を注視している。中国海監船は、継続して釣魚島海域のパトロールを行うであろう」と。

晨報記者：韓娜

編集責任者：蘇楠